

ハイボンファインプライマーⅡ

弱溶剤形 2 液エポキシ樹脂さび止め塗料

□ 規格表示

JASS 18 M-109 変性エポキシ樹脂プライマー（変性エポキシ樹脂プライマーおよび弱溶剤系変性エポキシ樹脂プライマー） 弱溶剤系変性エポキシ樹脂

□ 特長

- 塗料用シンナー A で希釈するため、作業性が従来の変性エポキシ樹脂塗料に比べ、良好です。
- 新規無公害型防錆顔料により、変性エポキシと同等以上の防錆性を有しています。
- 塗り重ね乾燥時間 4 時間以上（20℃）でファインウレタン U100 を塗装できます。

□ 塗料性状

		塗料液		硬 化 剤		
色		グレー、赤さび色、ホワイト、黒さび色		茶褐色		
密度(g/cm ³)(23℃)		1.37 (グレー混合塗料) 1.44 (グレー塗料液) 0.90 (硬化剤)				
光 沢		—				
引 火 点		35℃		30℃		
発 火 点		240℃ (参考値)		432℃ (参考値)		
消防法 表 示	化 学 名	合成樹脂エナメル塗料		合成樹脂クリアー塗料		
	危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)		第4類 第2石油類(非水溶性)		
	危険物等級	III (火気厳禁)		III (火気厳禁)		
有機溶剤区分		第2種		第2種		
毒 劇 物 表 示		—		—		
有 害 物 表 示		エチルベンゼン 変性エポキシ樹脂 エポキシ樹脂		エチルベンゼン ポリアミドアミン		
ホルムアルデヒド放散等級	登録(認証)番号 区 分 表 示 問 合 せ 先	N02135 F☆☆☆☆ https://toryo.or.jp				
国 連 指 針 番 号	1992/128		1993/128			
環 境 性 能	クロル [®] リホス	配合せず	ホルムアルデヒド [®]	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	9.8%	パラジクロロベンゼン	配合せず	イソパラフィン	10.2%
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ [®] -n-ブチル	配合せず	テトラリン	配合せず
	フタル酸ジ [®] -2-エチルヘキシル	配合せず	ダイアゾノ	配合せず	アセトアルデヒド [®]	配合せず
	フェノールカルブ [®]	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C	32.8%					

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

□ 塗装基準

下地調整：
混合：
荷姿：
ポットライフ：
希釈剤：
塗装方法：

- 塗り替え時の素地調整は発錆部、劣化部は第2種ケレンを、活膜部はサンドペーパー等で表面調整を行ってください。
- 2 液形のため、「塗料液：硬化剤＝9：1（重量比）」に混合し、十分にかくはんしてください。
- 16kgセット（塗料液：硬化剤＝14.4kg：1.6kg）、4kgセット（塗料液：硬化剤＝3.6kg：0.4kg）
- 6時間（23℃）、8時間（5℃）、4時間（30℃）
- 塗料用シンナー-A、塗料用シンナー-SA

塗装方法	はけ、ウールローラー塗り	エアレススプレー塗り
希釈率	0～10%	0～5%
使用量	0.16～0.18kg/m ² /回	0.16～0.18kg/m ² /回
膜厚（ドライ）	45μm	45μm/回

・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

・一次圧0.4～0.5MPa 二次圧12MPa以上 チップNo.163-617、619など

エアレス条件：
乾燥時間：

指 触 乾 燥	5～10℃	23℃	30℃
	2時間	1時間	30分
塗 り 重 ね 乾 燥	6時間以上10日以内	4時間以上7日以内	3時間以上5日以内

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

エアレス条件：

一次圧0.4～0.5MPa 二次圧12MPa以上 チップNo.163-617、619

□ 特記事項

- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 十分な塗膜性能を確保するため、規定の使用量をおまもりください。
- ごみ・ほこり・砂・油・樹脂などは、塗装前に水洗い、溶剤拭きなどで十分に除去し、乾燥した清潔な面にしてください。
- さびは、ワイヤブラシ・サンドペーパーなどで入念に除去し、膨れ・割れの発生にも注意し、十分なケレンを行ってください。
- 鉄、アルミニウム、溶融亜鉛めっき、電気亜鉛めっきなどを塗装する場合は入念な面荒しを行ってください
- 下地調整程度が悪い場合には、早期にさびを発生する可能性があります。
- 本品は規定の塗り重ね乾燥時間よりも早く上塗りを塗装しますと、縮み、割れ、乾燥不良を起こしますので、塗り重ね乾燥時間をまもってください。また、吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗り重ね乾燥時間は長めにとってください。短時間で上塗りを塗装しますと、溶剤による膨れや縮みなどが発生するおそれがありますので避けてください。
- 高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

□ 注 意 事 項

- ・ 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・ 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・ 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・ 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
- ・ 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・ 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・ 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・ 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨ずりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- ・ 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・ シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・ 素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・ 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・ 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・ 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・ 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・ 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・ シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・ 笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・ 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・ 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・ はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ・ 汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ はけなどの塗装用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
- ・ ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・ 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビソル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- ・ 表面に特殊セラミック処理・特殊ガラスコート処理、フッ素コート処理、はっ水処理、光触媒処理などの特殊な処理を施した素材には、塗料が付着しない場合や、塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
- ・ 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・ 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。

●本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

●本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

●Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. ※この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。